

2018年9月20日

経済レポート

グラフで見る関西経済(2018年9月)

調査部 主任研究員 塚田 裕昭

【今月の景気判断】

関西経済は緩やかに持ち直している。

項目	現状(9月)	前月
1. 景気全般	緩やかに持ち直している	-
2. 生産	横ばい圏で推移している	-
3. 輸出入	輸出、輸入とも横ばい	輸出は増加基調、輸入は横ばい
4. 設備投資	増加している	持ち直している
5. 雇用	改善している	-
6. 賃金	緩やかに持ち直している	-
7. 個人消費	持ち直しの動きが見られる	-
8. 住宅投資	横ばい圏で推移している	-
9. 公共投資	横ばい圏で推移している	-

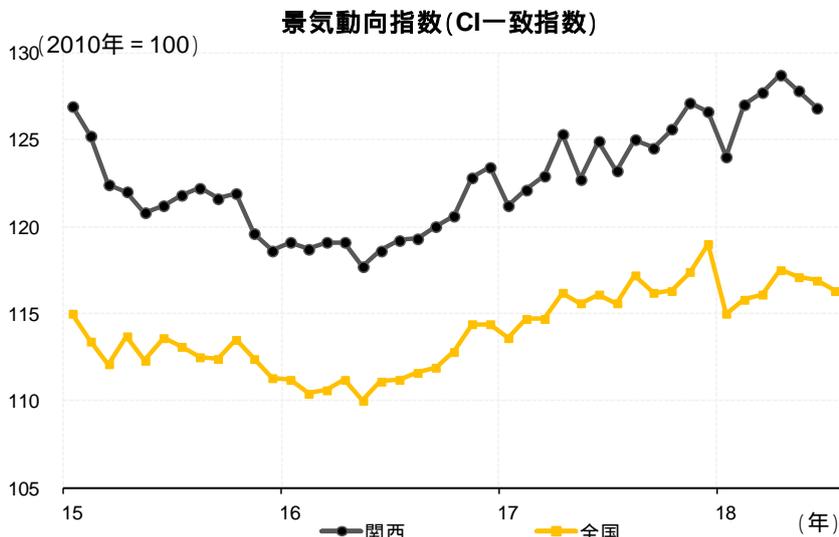
(注) 前月のコメントが現状と同じ場合は - と表記

【今月のポイント】

- ・生産、輸出ともに横ばい圏で推移している。先行きについては持ち直しを見込むが、足下の動きに留意が必要。
- ・設備投資は前年比増加の計画がたてられる中、法人企業統計による実績ベースでも伸びが拡大してきた。
- ・台風21号による関空の機能低下は、インバウンド消費の落ち込みなど関西経済に少なからぬ影響あり。今後の諸統計の動きに留意。

1. 景気全般 ~ 緩やかに持ち直している (先行き: 持ち直し)

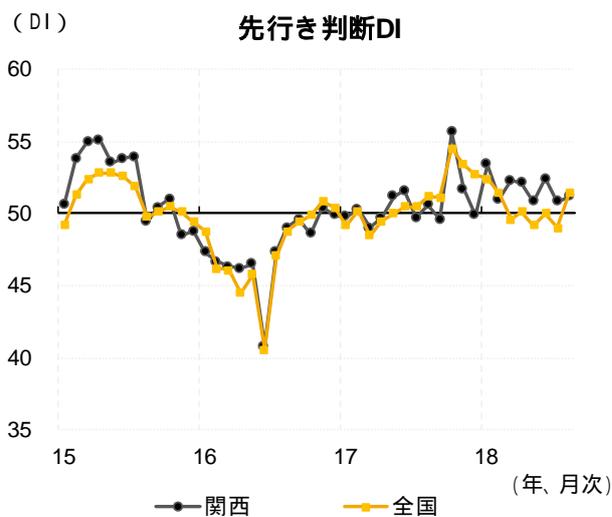
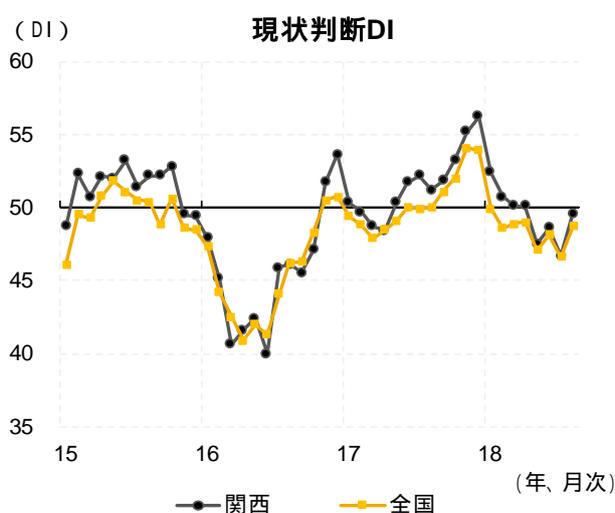
6月の関西の**景気動向指数・CI一致指数**は、生産財出荷、輸入通関額、所定外労働時間数(製造業)がマイナスに寄与し前月差 - 1.0ポイントの126.8と2ヶ月連続で低下したが、均して見ると緩やかに持ち直している。



(出所) 内閣府「景気動向指数」、大阪府「近畿地区景気動向指数の動き」

(注) 近畿景気動向指数の採用系列は、鉱工業生産、耐久消費財出荷、生産財出荷、有効求人倍率、百貨店販売額、輸入通関額、所定外労働時間(製造業)の7系列

景気ウォッチャー調査によると、8月の関西の**現状判断DI**(季節調整値)は前月差 + 2.9ポイントの49.6と2ヶ月ぶりに上昇した。関西のウォッチャーの景況感は、昨年末がピークとなり弱い動きが続いていたが、持ち直しの動きがみられる。**先行き判断DI**(季節調整値)は、同 + 0.4ポイントの51.2と2ヶ月ぶりに上昇した。

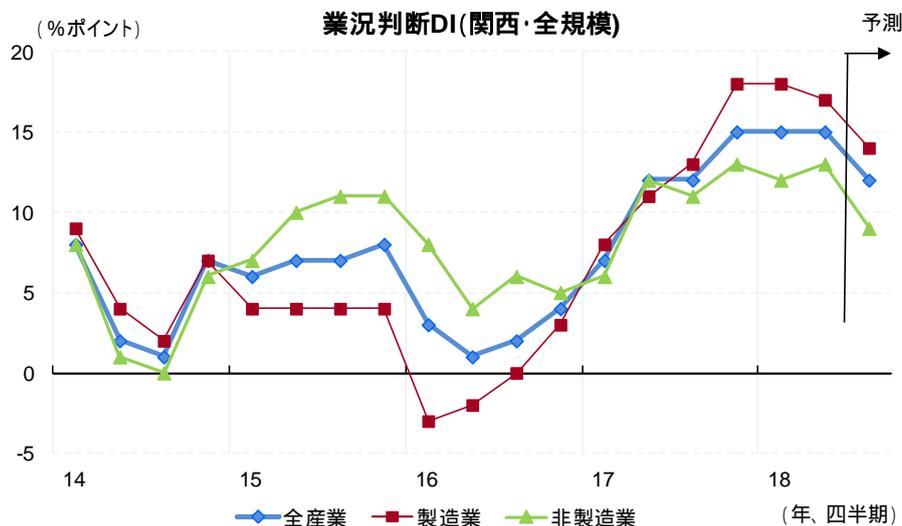


(注) DIは季節調整値

(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

関西企業の景況感について**日銀短観6月調査**を見ると、**業況判断DI**は全産業(全規模)で+15と前回3月調査と同水準となった。製造業(全規模)は+17と3月調査より1ポイント悪化し、非製造業(全規模)は+12と1ポイント改善した。先行きについては、全産業、製造業、非製造業共に悪化が見込まれている。

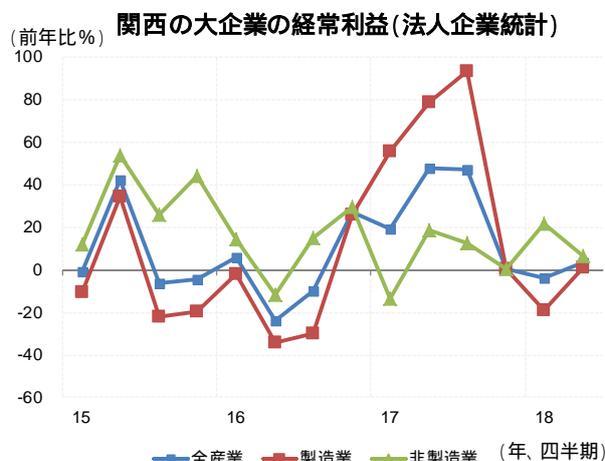
(コメント・グラフともに前号から変更なし)



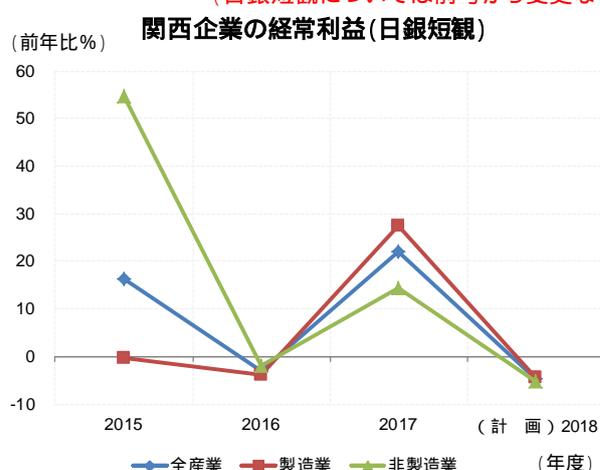
(出所)日本銀行大阪支店「企業短期経済観測調査(近畿地区)」

関西企業の収益動向について**法人企業統計**を見ると、2018年4~6月期の大企業の**経常利益**(全産業)は、前年比+3.5%と2四半期ぶりに増加した。製造業が同+1.2%と2四半期ぶりに増加し、非製造業も同+6.6%と5四半期連続で増加した。**日銀短観6月調査**では、17年度の**経常利益**は全産業で同+22.1%、製造業で同+27.4%、非製造業で同+14.5%となった。18年度は全産業で同-4.6%、製造業で同-4.3%、非製造業で同-5.1%と計画されているが、水準は高い。

(日銀短観については前号から変更なし)



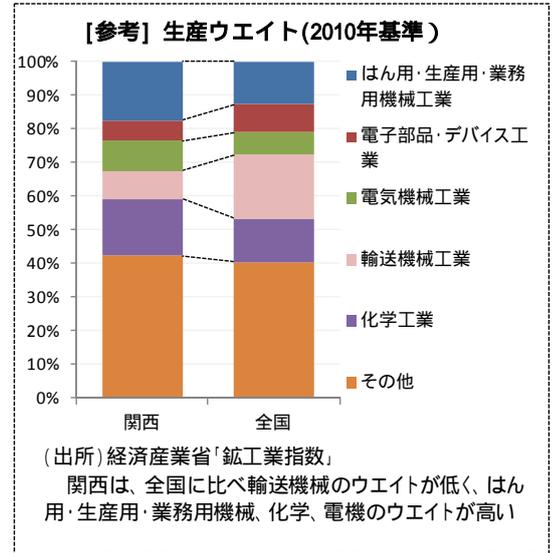
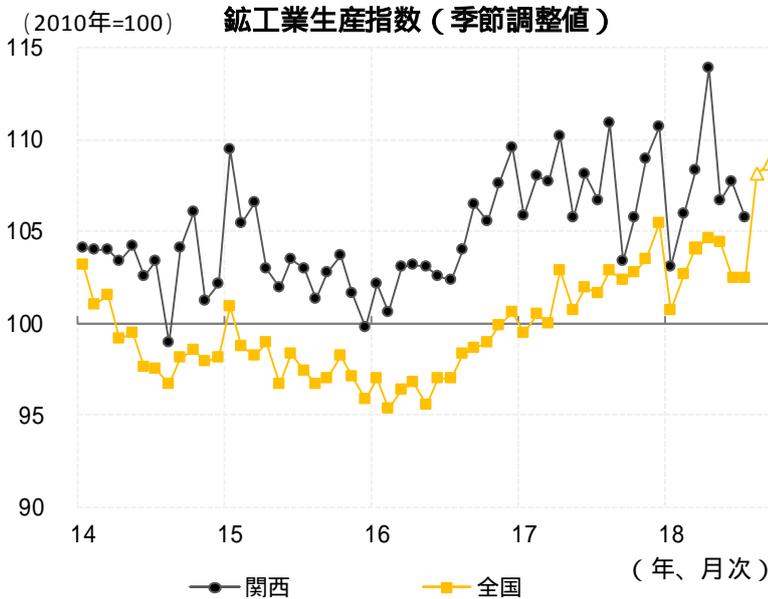
(注)資本金10億円以上の法人(除く金融・保険)
(出所)近畿財務局「法人企業統計調査」



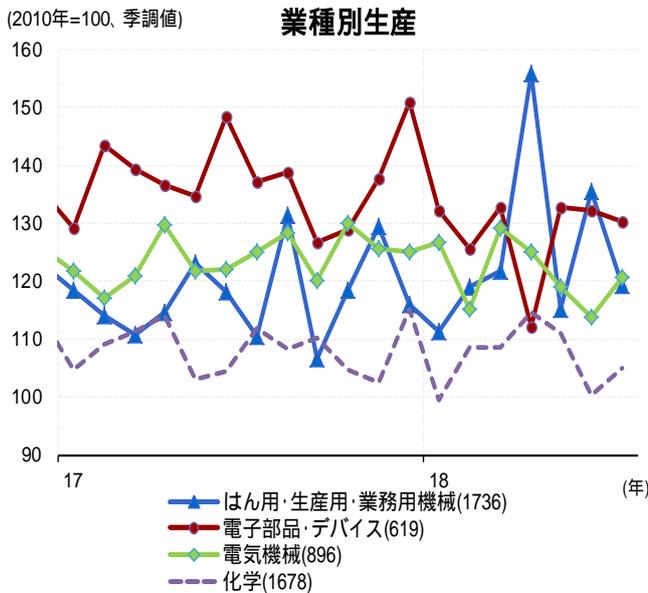
(出所)日本銀行大阪支店「短観」

2. 生産 ~横ばい圏で推移している (先行き: 緩やかに持ち直し)

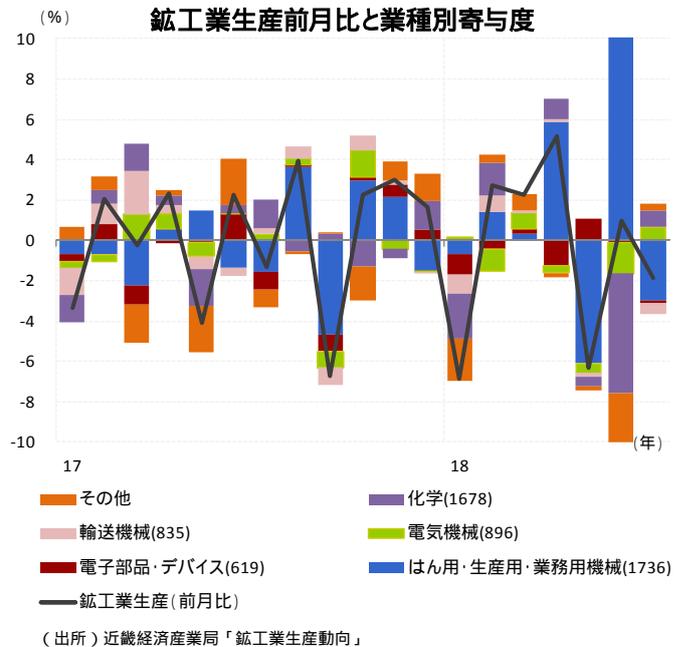
7月の関西の**鉱工業生産**は、前月比 - 1.9%と2ヶ月ぶりに減少した。化学(除医薬品)、金属製品などが増加したが、はん用・生産用・業務用機械、輸送機械、鉄鋼などが減少した。近畿地区の生産は均して見ると横ばい圏で推移している。



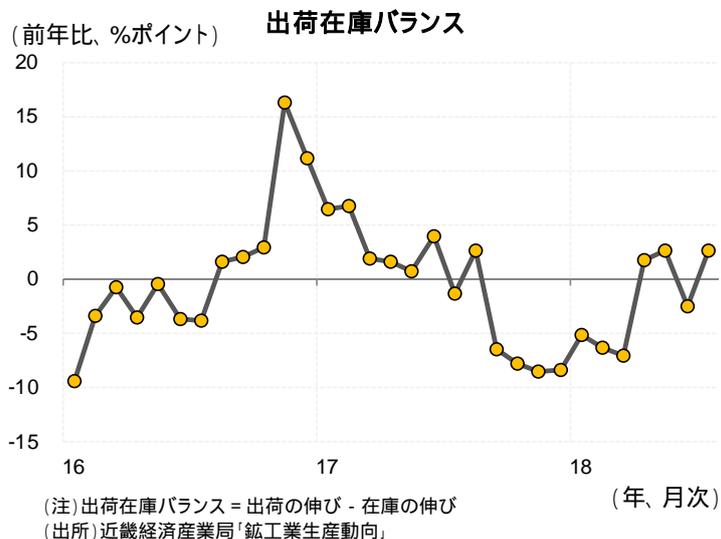
(注) 生産(全国)の「□」は製造工業生産予測調査結果に基づく予測。
(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」、経済産業省「鉱工業指数」



(注) 凡例の括弧内の数字は付加価値ウエイト(鉱工業 = 10,000)
(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

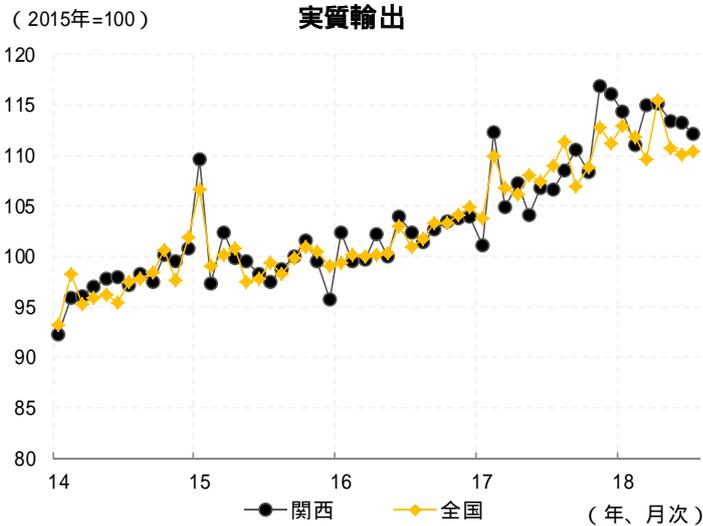


出荷の伸びから在庫の伸びを引いた**出荷在庫バランス**(出荷の伸び - 在庫の伸び)は、7月は出荷が増加した一方、在庫が減少したことから、2ヶ月ぶりにプラス圏となった。

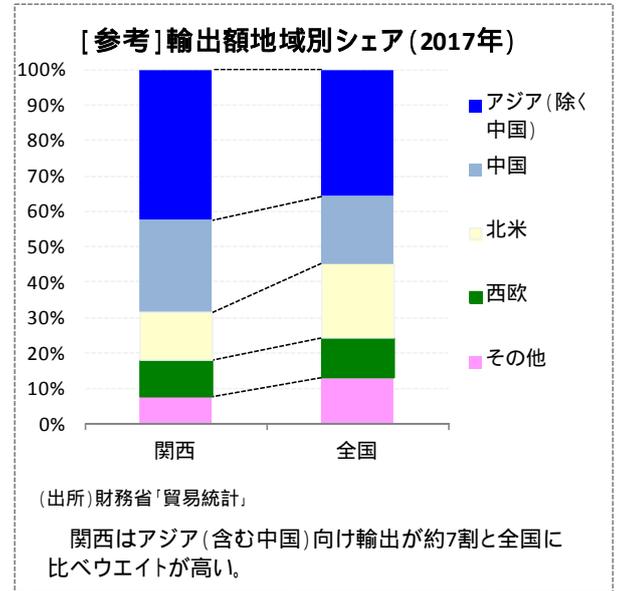


3. 輸出入 ~ 輸出、輸入とも横ばい (先行き: 輸出は増加基調、輸入は横ばい)

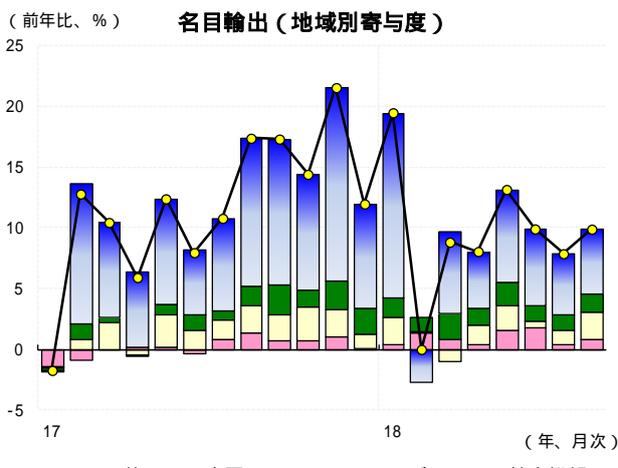
7月の関西の**実質輸出**は前月比 - 0.9%と3ヶ月連続で減少した。均して見ると横ばいとなっている。



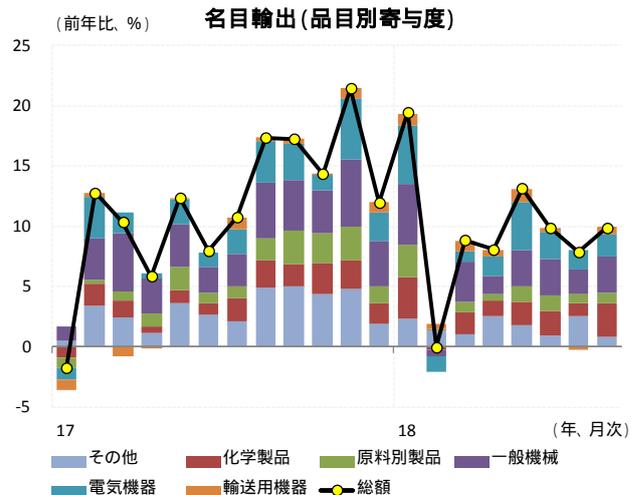
(出所) 日本銀行大阪支店「実質輸出入」



8月の**名目輸出額**は前年比 + 9.9%と6ヶ月連続で増加した。地域別では、米国は5ヶ月連続、EUは16ヶ月連続、アジアは6ヶ月連続で増加した。品目別にみると、科学光学機器(同 - 17.5%)などが減少したが、半導体等電子部品(同 + 54.4%)、原動機(同 + 54.9%)などが増加した。

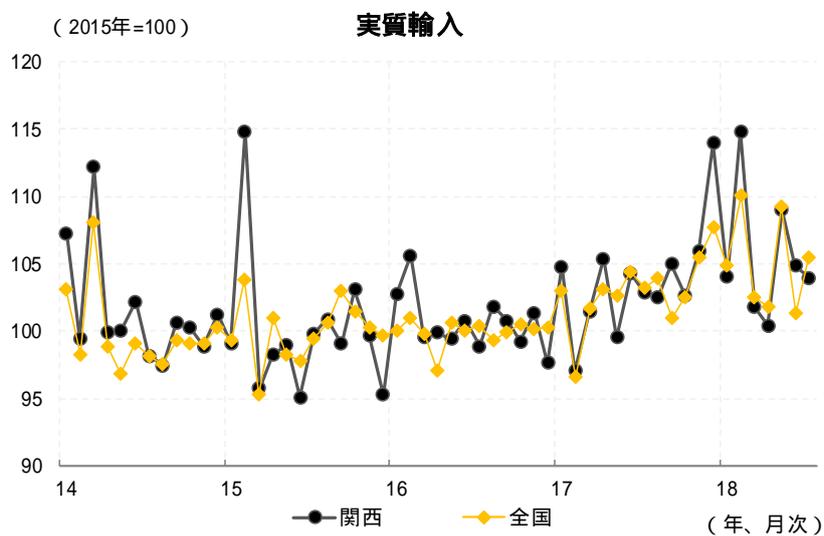


(出所) 大阪税関「近畿圏貿易概況」



(出所) 大阪税関「近畿圏貿易概況」

7月の関西の**実質輸入**は前月比 - 0.8%と2ヶ月連続で減少したが、均して見ると横ばいとなっている。



(出所) 日本銀行大阪支店「実質輸出入」

4. 設備投資 ~ 増加している (先行き: 増加)

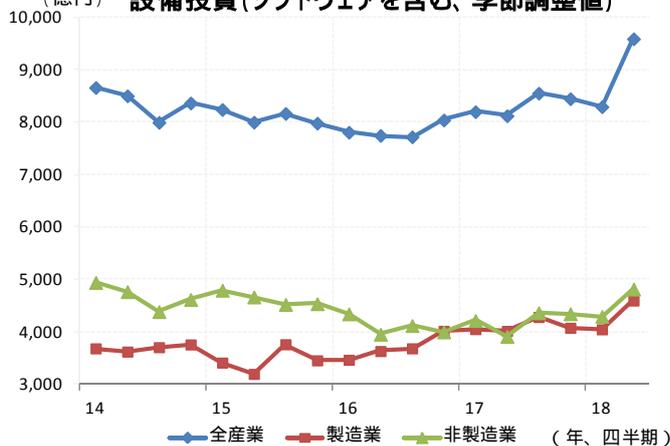
法人企業統計によると2018年4~6月期の関西の大企業の設備投資(ソフトウェアを含む)は前年同期比+18.2%と7四半期連続で増加した。季節調整値(MURC試算)の動きを見ても、足下で増加している。

設備投資の前年比伸び率(全産業、%)

	関西	全国
17年 4-6月	4.2	1.5
7-9月	11.3	4.2
10-12月	5.3	4.3
18年 1-3月	0.9	3.4
4-6月	18.2	12.8

(出所)財務省「法人企業統計調査」

(億円) 設備投資(ソフトウェアを含む、季節調整値)



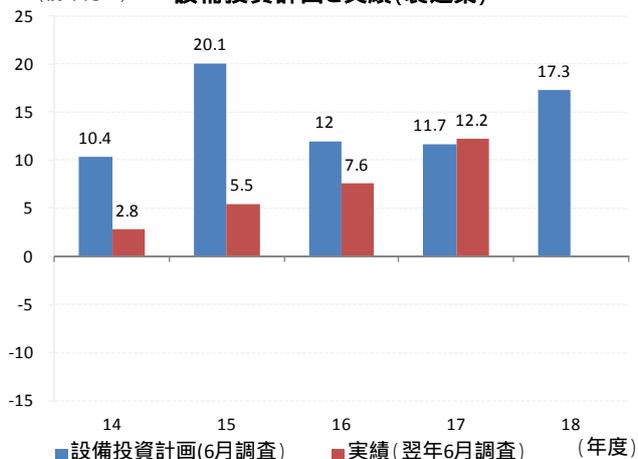
(注)季調はMURC

(出所)財務省「法人企業統計調査」

日銀短観6月調査によると、関西の17年度の設備投資は、全産業で前年比+4.3%(3月調査同+9.6%)と増加した。内訳を見ると、非製造業は同-1.3%(同+6.1%)と減少したが、製造業は同+12.2%(同+14.4%)と増加した。18年度については、全産業で同+17.2%、製造業で同+17.3%、非製造業で同+17.2%と計画されている。

(コメント・グラフともに前号から変更なし)

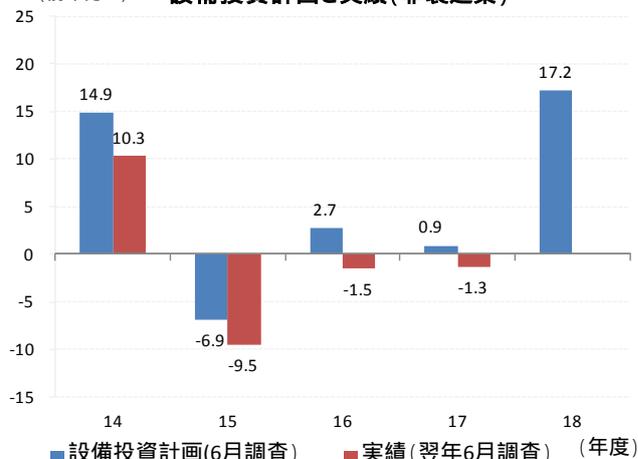
(前年比%) 設備投資計画と実績(製造業)



(注)設備投資は含む土地投資額

(出所)日本銀行大阪支店「短観」

(前年比%) 設備投資計画と実績(非製造業)



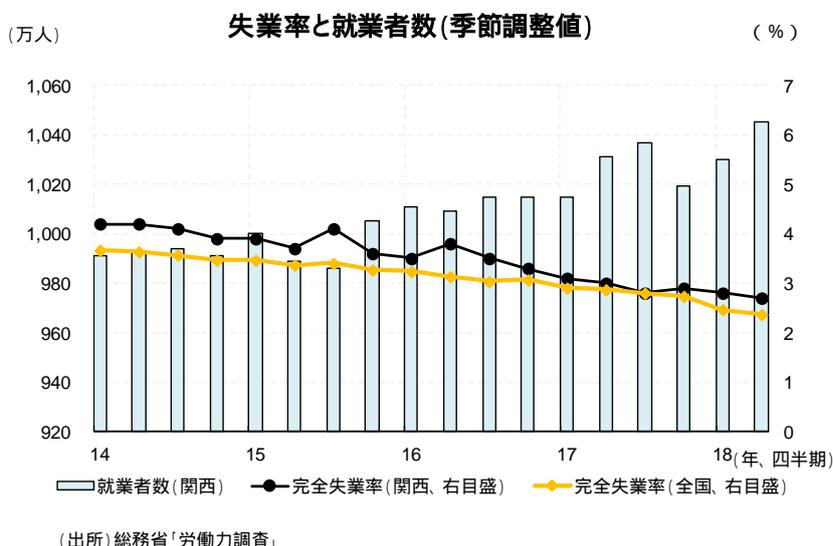
(注)設備投資は含む土地投資額

(出所)日本銀行大阪支店「短観」

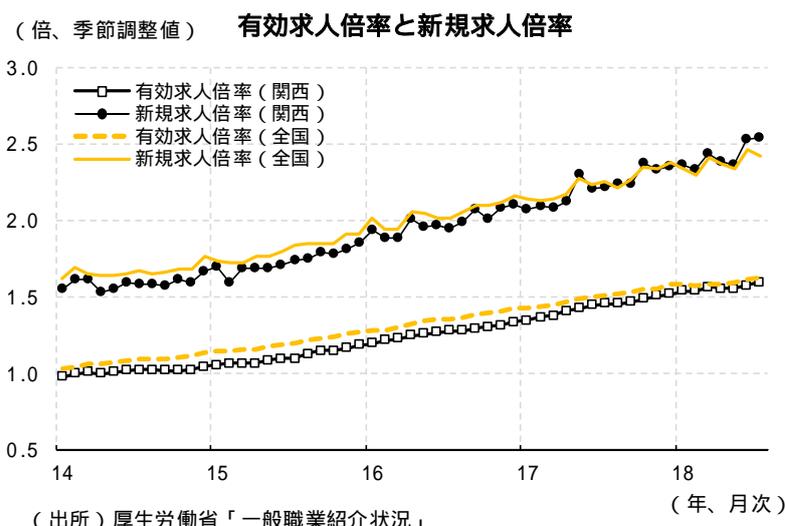
5. 雇用 ~ 改善している (先行き: 改善)

4-6月期の関西の**完全失業率**(季節調整値)は前期差 - 0.1%ポイントの2.7%となった。**就業者数**(季節調整値)は同15万人増加し、完全失業者数(季節調整値)は同1万人減少した。

(コメント・グラフともに前号から変更なし)

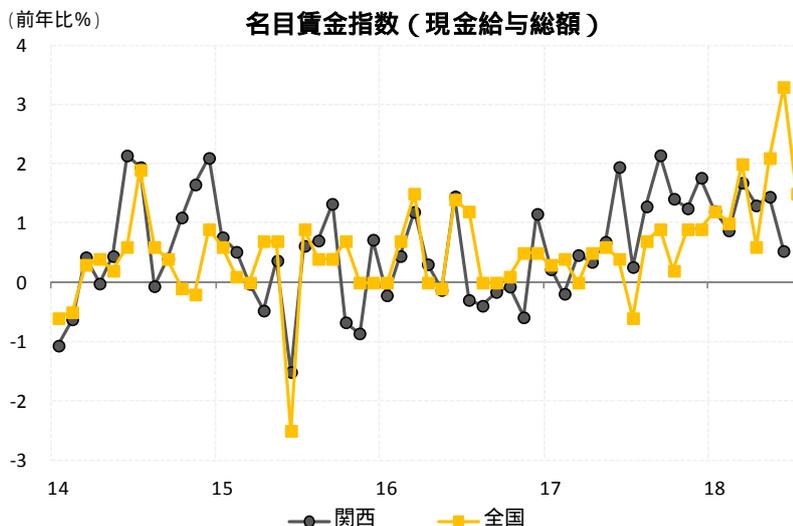


7月の関西の**有効求人倍率**は1.60倍と2ヶ月連続で上昇した。**有効求人数**は前月比 - 0.5%と減少したが、有効求職者数も同 - 1.4%と減少した。有効求人倍率に先行する**新規求人倍率**は2.54倍と2ヶ月連続で上昇した。新規求人数は前月比 + 1.1%と増加し、新規求職申込件数も同 + 0.5%と増加した。



6. 賃金 ~ 緩やかに持ち直している (先行き: 緩やかに持ち直し)

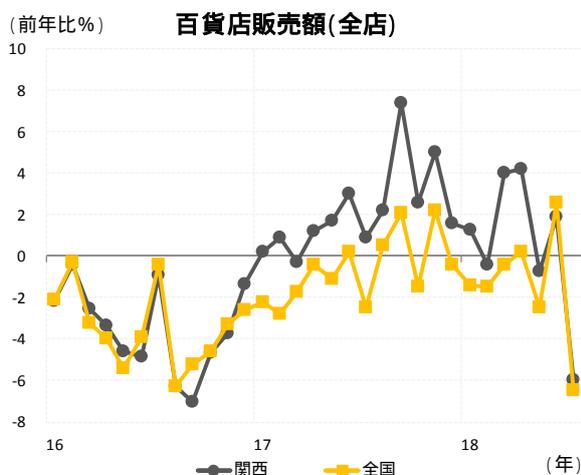
6月の関西の**名目賃金指数(現金給与総額)**(MURC試算)は、前年比+0.5%となっている。



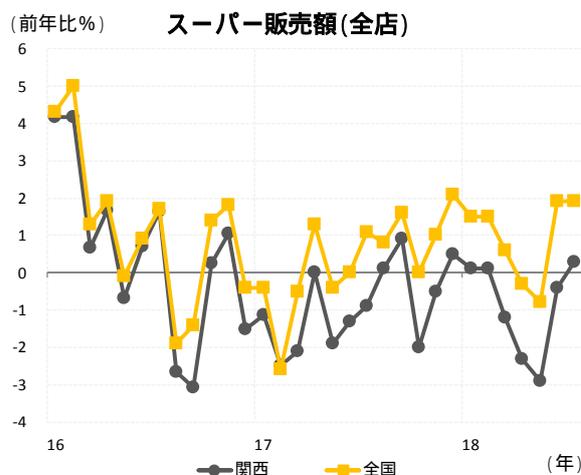
(注) 関西2府4県の名目賃金指数を常用労働者数で按分し合成したもの、MURC試算 (年、月次)
 (出所) 厚生労働省、各県「毎月勤労統計」

7. 個人消費 ~ 持ち直しの動きが見られる (先行き: 緩やかに持ち直し)

7月の関西の**百貨店販売額(全店)**は、前年比-6.0%と2ヶ月ぶりに減少した。豪雨、猛暑、6月に実施した夏のバーゲン前倒しの反動などが影響した。一方、**スーパー販売額(全店)**は同+0.3%と5ヶ月ぶりに増加した。天候不順により野菜など食料品価格が上昇したことが、売上げを引き上げた面もある。

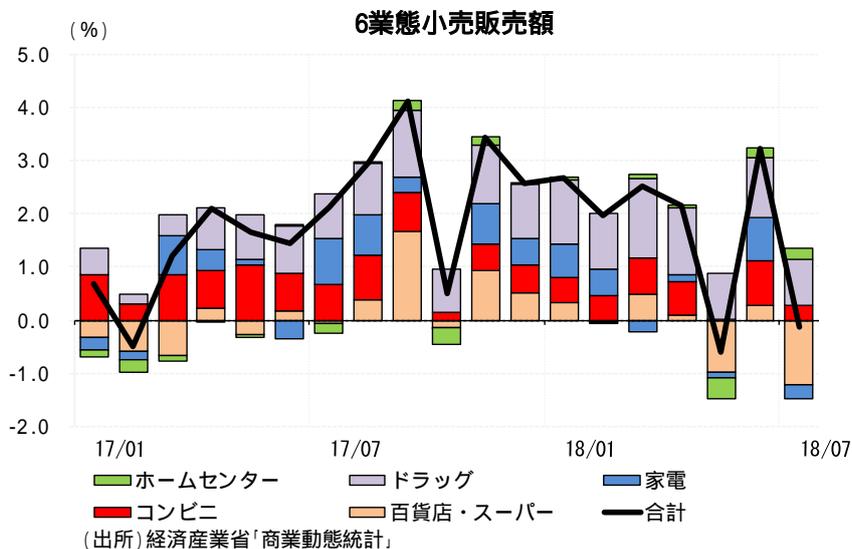


(出所) 経済産業省「商業動態統計」



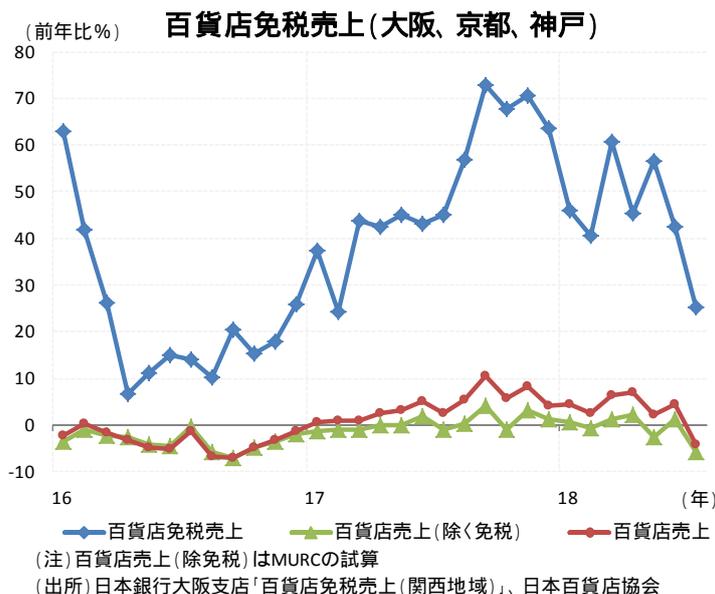
(出所) 経済産業省「商業動態統計」

7月の商業動態統計調査 6業態の販売額の合計は、前年比 - 0.1%と2ヶ月ぶりに減少した。

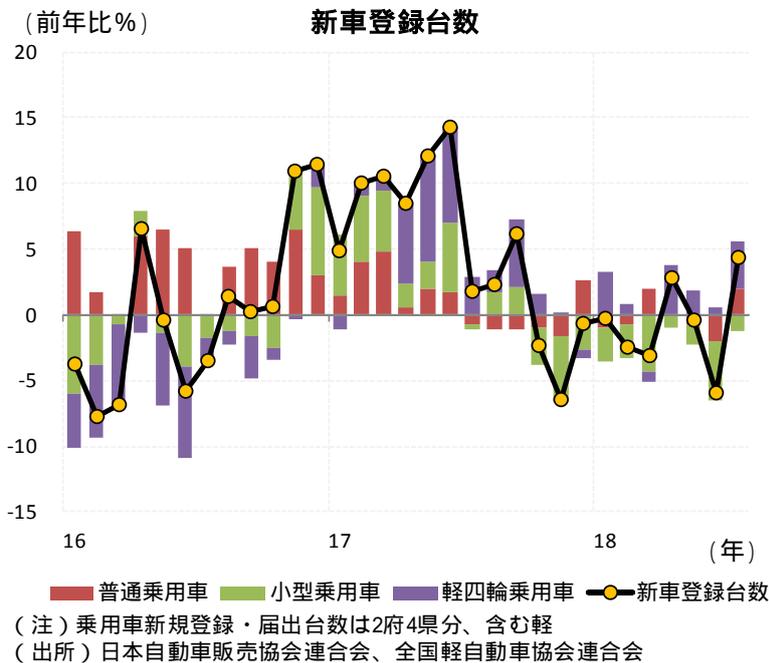


7月の百貨店免税売上（大阪、京都、神戸）は、前年比 + 25.2%と大幅な増加が続いているが、伸び率は縮小した（同月の免税売上比率は8.9%）。6月の大阪北部地震や西日本豪雨による旅行取りやめの動きが影響した。百貨店売上から免税店分を除いた国内向け売上（MURC試算）は、同 - 5.9%と2ヶ月ぶりに減少した。百貨店売上げ全体では、同 - 4.3%と19ヶ月ぶりに減少した。豪雨、猛暑、6月に実施した夏のバーゲン前倒しの反動などが影響した。

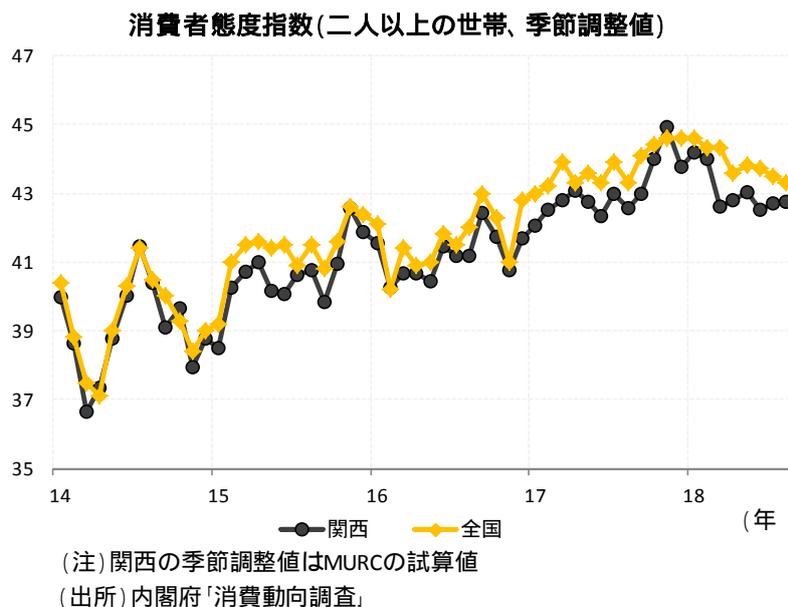
(コメント・グラフともに前号から変更なし)



7月の関西の**新車登録台数(乗用車、含む軽)**は前年比+4.4%と3ヶ月ぶりに増加した。小型車(同-3.8%)は10ヶ月連続で減少したが、普通車(同+5.5%)は4ヶ月ぶりに、軽自動車(同+11.4%)が4ヶ月連続で増加した。

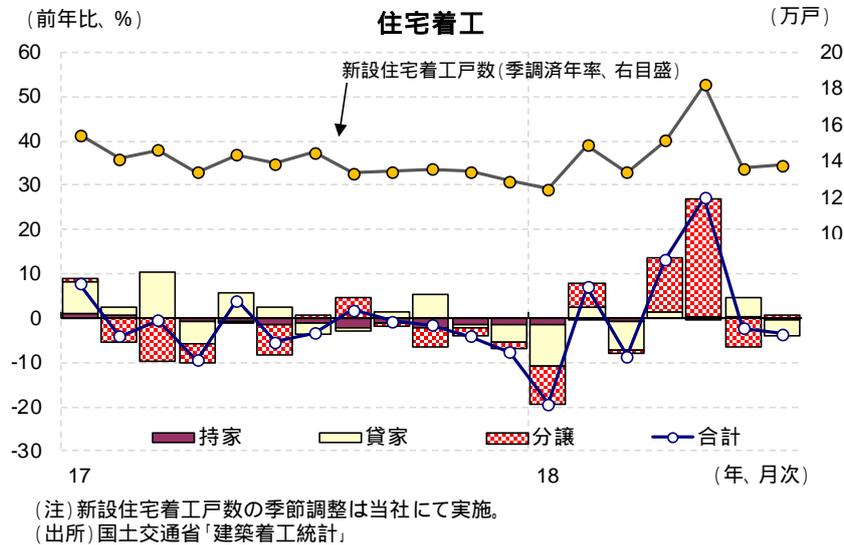


消費者マインドを表す**消費者態度指数(季節調整値: MURC試算)**は、昨年12月をピークに弱い動きが続いている。



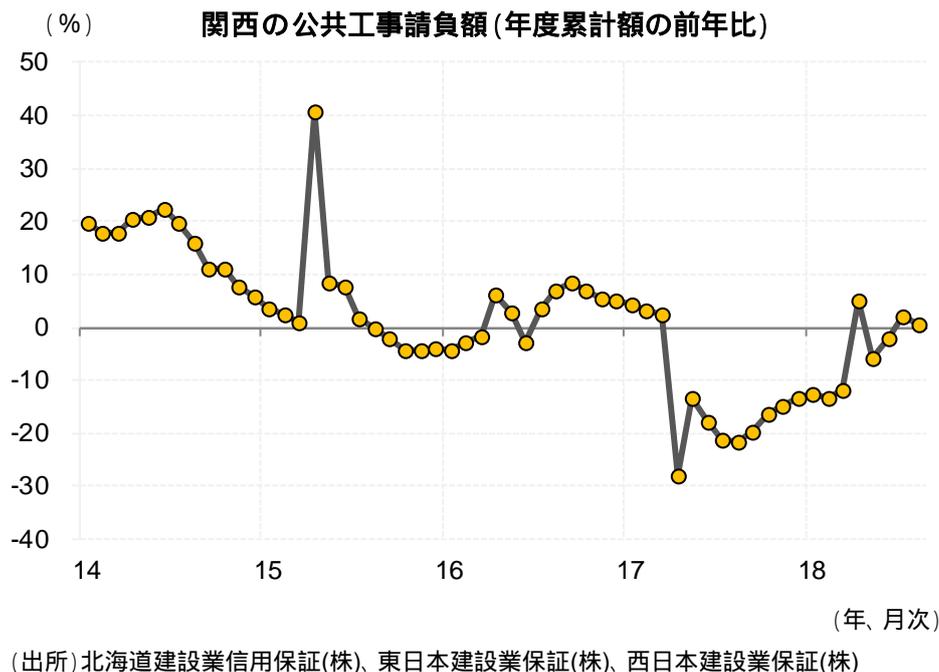
8. 住宅投資 ~ 横ばい圏で推移している (先行き: 弱含み)

7月の関西の住宅着工戸数は、季調済年率(MURC試算)で13.8万戸と2ヶ月ぶりに増加した。また、原数値の前年比では - 3.6%の12,151戸と2ヶ月連続で減少した。



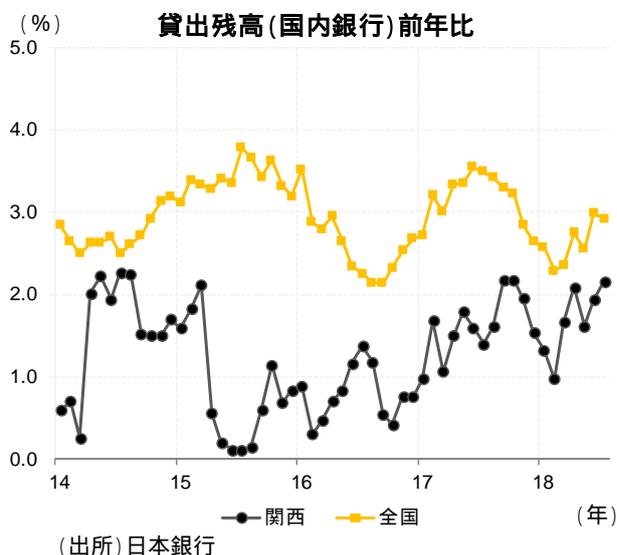
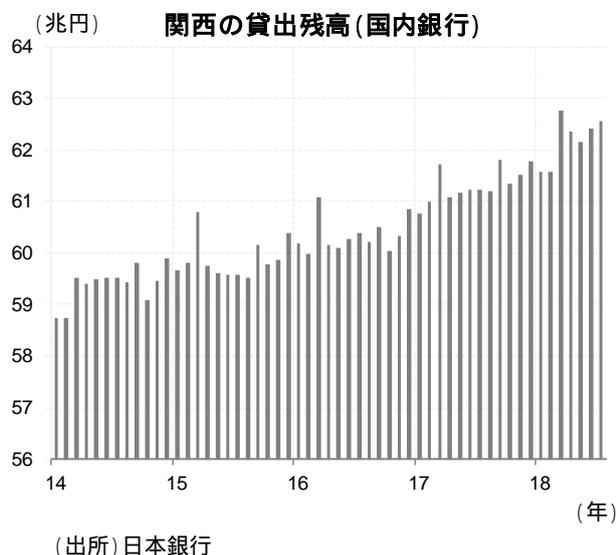
9. 公共投資 ~ 横ばい圏で推移している (先行き: 横ばい圏)

8月の関西の公共工事請負額(年度累計額)は、前年比+0.6%と2ヶ月連続で増加した。一方、8月単月では前年比 - 7.1%の954億円と3ヶ月ぶりに減少した。関西の公共投資は、均して見ると横ばい圏で推移している。



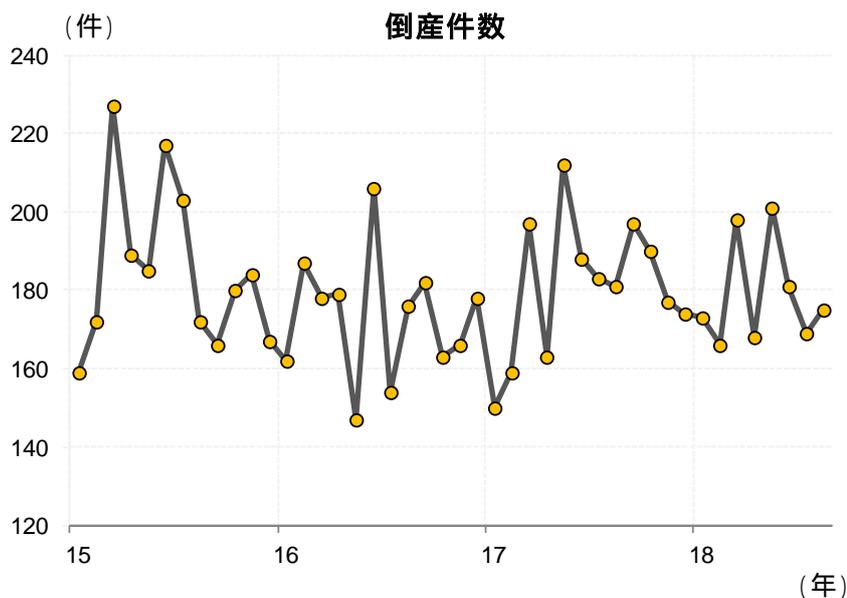
10. 貸出 ~ 貸出は増加

関西の7月の貸出残高(国内銀行ベース)は、同+2.2%の62.6兆円となった。日銀大阪支店では「企業向けや住宅ローンの増加などを背景に」貸出が増加しているとみている。



11. 倒産 ~ 倒産件数は前年比で減少

8月の関西の倒産件数は、前年比 - 3.3%の175件(前年同月181件)と34ヶ月連続で減少した。一方、倒産企業の負債総額は同+57.0%の266億円と、2ヶ月ぶりに増加した。



- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡ください。